市電と私たち新聞

2019年8月23日

梅小路小学校
森　潤

僕の通う梅小路小学校のすぐ前には梅小路公園という大きな公園があって、京都水族館や、鉄道博物館もあります。この公園には古い電車の中でアイスやジュースを売る市電カフェがあります。なんでこんなカフェがあるんだろう。この電車について調べてみました。

市電の歴史

日本初の路面電車

京都の路面電車ができたのは明治28年(1895)に今の京都駅の東側辺りから、南の伏見の方まで行く「伏見線」が始まりです。この頃は「京都電気鉄道」という名前でした。京電が日本初の路面電車で日本に最初に電車ができたのが明治23年(1890)年。

その後京都市内の色々な通りに線路が伸びていきました。大正7(1918)年には京都市が京電を買い取り「京都市電」になりました。市電はとても便利で沢山の人が利用する、市内の交通の主役だった。その時には合わせて68キロに路線が伸びていたそうです。最も盛んだった時には約40万人が利用していたそうです。

人よ、うならの理由

市電は昭和36年に北野線が廃止されその後少しずつ廃止になっていき、昭和53年に全路線がなくなりました。理由は色々あると思いますが僕は自動車が増えたことが原因だと思います。調べてみると大正7年は約4500台ですが昭和30年は約133万台、昭和50年は約330万台と急激に増えていることが分かります。車に乗る人が増えたので市電を利用する人が減ったのだと思います。

和歌山に住むおじいさんは若い頃京都に住んでいて、僕がお見舞に行くのに乗りました。30才の頃お父さんが病気になって前には運転手さんが後ろには車掌さんが乗っていました。ようさんどちらも真剣で頑張っていたなと思っていました。

京都市電のなるほど市電カフェの秘密

市電カフェの車両は年齢が違う事を知っていますか？写真左側の車両の前には「505」右側は703と番号が書いてあります。車両は開業当初の「狭軌1形」から始まり、大正13年から製造された「500形」、「600形」、「700形」と次々新しい車両が生まれ全部で346両造れました。

2つの車両の違い

	製造年	同形の車両	特徴
505	大正13	40両	内装は木が多く電球のランプが使われていて古い洋室のよう。ドアは手動。
703	昭和33	48両	内装は鉄板が多く使われていてドアは4枚折り。正面の上にはライトがついている。

僕の町の七条線

七条東山
博物館三十三間堂前
七条大橋
七条河原町
七条烏丸
七条西洞院
七条大宮
七条壬生通
七条千本
七条御前通
西大路七条

名物アンダーパス

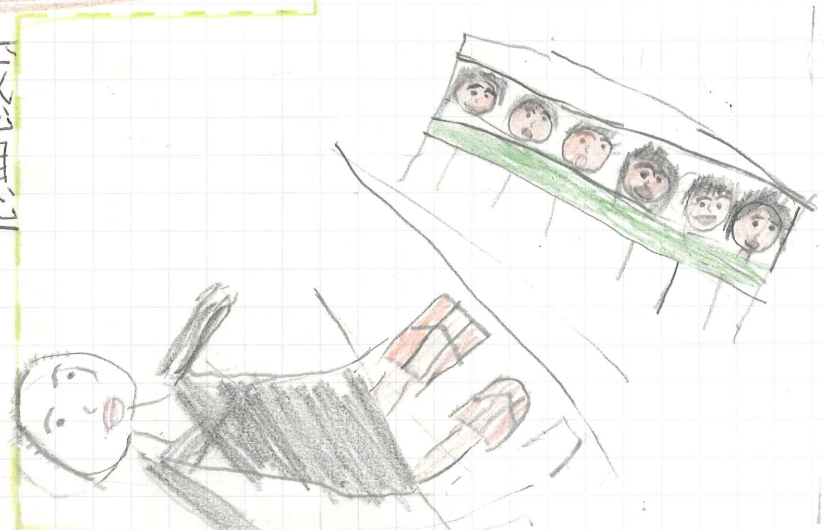
七条通りは東山から北に大通りを走り、陰陽線の上を通って、南に大通りを走り、人通りの多い七条通りは教えてくれます。「七条通り」は、すぐ北側の通りの電車好きな人なら知っている通り。「あれは鉄道です。」そうさんで、本当は「七条通り」です。この通りは、小学校の横を走る千本通りまで、小路通りまで、西大路通りまで、七条通りまで、梅小路通りまで、西大路通りまで、陰陽線の上を通っています。この線路交差のアンダーパスは、梅小路公園の西の山の中にあります。なぜ、ここにアンダーパスがあるのかは、昔、ここに工場があったからです。工場の屋根が水没した。影響が大きかったとしるる撮影場所。

元梅小路に「駅」？

市電カフェのある梅小路公園について調べていると面白い事がかかりました。

今、公園になっている場所には100年ほど前「梅小路停車場」という駅があったそうです。すぐ近くの西本願寺で明治44年(1911)に行われた「親鸞聖人650回大遠忌法要」に参拝する団体が利用する列車専用の臨時に作られたそうです。

お坊さんのお父さんがその時の写真を見せてくれました。列車に乗って帰る人たちをお寺の人たちが送っている様子です。



・帰る人達は窓越しにお寺の人にお礼している所です。

感想

市電は人々に愛され続けた物だと思います。市民の心に一番近い乗り物だと思いました。市電に乗る人の話を聞くと、自分も乗りたいと思ったのです。また嵐電に乗って昔の風景を味わいたいです。

人たちが感じた風景を味わいたいです。

これから、市電の良さについて色々な人に広めて行きたいです。